
岐阜県立中津川工業高等学校

学校長 堀 秀樹

学校住所 中津川市千旦林1521-3 電話 0573-68-2115

1 会議名 中津川工業高等学校運営協議会（第3回）（書面開催）

2 開催日時 令和3年2月1日（月）

3 参加者

委員	田口 雅徳	様
	楯 明夫	様
	松井 進	様
	丸山 優	様
	山口公美子	様
	尾関里恵子	様
	古田 健二	様
	加藤 早苗	様
	沼田 麻衣	様（代理 後藤 元晴 様）
		（敬称略 順不同）
学校側	堀 秀樹	校長
	藤原 竹志	教頭
	中山 栄幸	事務長
	藤浪 元明	教務主任
	水谷健太郎	生徒指導部長
	山田 豪	進路指導部長
	後藤 昭博	工業部長

4 会議の概要（資料にて代替説明）

（1）学校と地域との連携について（10月～）

- ① 令和2年度 地域連携による活力ある高校づくり推進事業の進捗状況
- ② テクノボランティア
- ③ 出前授業 依頼のあった小中学校にて
- ④ 令和2年度 地域産業の担い手育成総合戦略事業
- ⑤ 若年者人材育成支援事業
- ⑥ 岐阜県東部電気工事協同組合様との交流会
- ⑦ 高校生建設現場見学会
- ⑧ 建設関連企業等と学生の交流サロン

（2）学校行事および生徒の活動の様子について

（3）部活動について

（4）中学校へのPR活動について

5 協議内容

（1）学校と地域との連携について

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、体育祭や修学旅行など多くの学校行事や地域連携事業が中止となった。しかしながら、コロナ禍の中でも、生徒や地域社会のために地域との連携活動を進めた。

意見1：コロナ感染対策を取りながら、生徒が精一杯取り組む様子がうかがえる。

意見2：坂本こども園のウサギ小屋を作っていただき感謝している。コロナ禍ではあるが、来年度は本校との保育実習を実施したい。園児・保護者とも、今年は実施できず残念に思っていた。

意見3：今年度は、仰星祭や体育祭などの行事が中止となり地域の方を招くことができなかったが、地域と

連携した様々な活動が資料より確認できた。

(2) 学校行事および生徒の活動の様子について

10月から1月末までの、本校の教育活動を冊子にまとめたものを会議資料として送付した。今年度はコロナ禍により、高校生の就職試験解禁が例年より1か月遅れの10月16日となった。生徒が就職試験や進学受験に安心して取り組めることを最優先に考え、仰星祭（学校文化祭）及び体育祭を中止とした。また、修学旅行もコロナウイルスの感染拡大により一年延期とし、これらの代替として、高山などへの日帰り研修旅行を実施した。大きな行事は中止または延期となった一方で、学校内で行えるキャリア教育や地域貢献活動などの教育活動は、例年通り行った。進路実績については、就職希望者は全て就職先が内定した。生徒指導について、毎月実施している「心のアンケート」により、情報モラルや人間関係のトラブルを発見し、即座に対応した。また、コロナ禍の影響もあり、不登校傾向のある生徒はスクールカウンセラーと連携し、対応を進めている。

意見4：生徒たちの様子は、ホームページでこまめに紹介されており、学校の様子を知る機会となった。

意見5：生徒指導面での早期発見、早期対応と校内での情報共有の状況がうかがえ、大きな問題になる前に対応している。不登校対応はとても難しい課題である。

意見6：本校伝統の運動会での応援合戦が行えず、生徒は残念だったと思う。企業見学や研修旅行等は実施できてよかった。

意見7：女子生徒が増えてきているので、多様性の観点からも指導方針の見直しが必要である。

意見8：様々な行事が中止、あるいは開催しても多くの制限があり例年通りの活動が出来なかった。今後もコロナ禍は続く想定し、状況に対応した活動への切り替えが必要である。生徒には、有意義な高校生活を送っていただきたい。

意見9：コロナ禍の中でも、生徒の力強さを資料の写真から感じる。

(3) 部活動について

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、多くの高校生が目標にしてきた全国高校総合体育大会（インターハイ）及び全国高校野球選手権が戦後初めて中止となった。一方、縮小はしながらも開催された大会もいくつかあった。

意見10：大きな大会が中止となり、先輩から後輩へ部活動の伝統をつなぐのも大変だったと思う。指導する教員は大変な状況だが、生徒たちのモチベーションを保ってほしい。

意見11：ブラスバンドの演奏が聴けなかったのは、地域にとって残念であった。

意見12：高校生の3年間は今しかないので、試合が無かったり、練習会場を使えなかったりと、生徒は悔しい経験をたくさんした。通常のありがたさが分かった年であった。

意見13：コロナ禍で多くの制限がある中、生徒はよく頑張った。

意見14：地域産業を支える工業高校として、多くの求人があり、内定状況が素晴らしい。今後も、地域産業を発展させる人材を育成してほしい。

(4) 中学校へのPR活動について

例年なら、「夏の高校見学会」「一日入学」「仰星祭」と中学生に直接の本校の魅力を知ってもらう機会があったが、コロナ禍で実施できなかった。その対応策として、ホームページの充実、本校オリジナルポスターの製作（東濃地区全中学校に配付）、魅力紹介のリーフレットの作成を進めた。

意見15：地域産業を支える工業高校への入学希望者が増えることを強く望む。

意見16：中学生へのリーフレットは、見やすく分かりやすい。工業高校の魅力をどんどん発信してほしい。

6 会議のまとめ

今年度の学校運営協議会は全て書面開催となり、生徒の学校生活を直接見て頂くことが出来なかった。少しでも学校の様子を知っていただけるよう、ホームページを毎日更新するなど広報活動に務めた。今後は、委員の皆様からの貴重なご意見を校内で共有し、出来ることから実践したい。本校がますます魅力ある「地域に愛され信頼される工業高校」となるため、ふるさと岐阜・中津川への愛着を育む「ふるさと教育」を推進し、地域産業を担う専門的職業人を育成できるよう精一杯努力したい。